

九州朝陽会報

平成22年7月7日発行 第十二号

松尾敏男画伯画業六十周年

回顧展覧会に寄せて

樋口大成(旧17)

松尾敏男画伯は、私の六中同級生で、今や七十年來の親友です。このことを九州朝陽会の皆さんにお伝えしたくて御案内し、さらに余談を一筆します。

六中のキャンパスは新宿御苑(聖地)の一角にあり、また校長二階源市氏は、たいへんなりべラリストであったにもかかわらず、その気骨は政府も軍部も高く買っていたようで、私の在校中、昭和16年と18年に、昭和天皇のご名代として、二度宮様の学校台臨がありました。その一度目、東久邇宮殿下がみえた時(昭和16年6月22日)は、学業クラブ活動ご見学後、特別な生徒一名によるイベントが挙行されました。それは、全生徒中随一のスポーツマンによる器械体操(鉄棒)の演技披露でした。その特別な生徒が、実は松尾敏男だったのです。

先ず、松尾君が一人、高い鉄棒の下に立ち、向かい合わせに、殿下・

校長・教職員・全生徒千三百人が並び、演技が始まりました。みごとな大車輪・逆車輪。一同目を見張っていると、突然大雨が沛然(はいぜん)と降ってきましたが、演技はその中で続けられました。私たち一同は、鉄棒がびしょ濡れになったので、松尾君は滑って転落し死にはしないかと心配しました。しかし雨は、またフト止み、演技は続けられて無事終了しました。

私たちは、松尾君はオリンピック選手になるのだらうと思っていました。ところが中四のころでしたか、突然スポーツマンをやめて画家に転向するのだと言いました。軽い病気をしたとかが動機だそうでした。

その頃、私は杉並区高円寺から新宿大久保に転居しました。そして偶然でしたが、そこは松尾君と三・四軒離れた家でしたので、よくダベりに行ったものです。六畳ほどの畳の間がアトリエで、いつも優れた絵を描いていました。でも、私の目の前の小柄な学友が、まさか今日の大家になるとまでは、思いませんでした。いまや平山都夫画伯のあとを追いつ、日本画でほとんどトップの人になりました。

後年、松尾君に

「あの時鉄棒から転倒落下して君は死ぬかと思った」と言ったところ、彼の反応は別でした。

「雨が上がって急に晴れたら、千三百人の真黒い学生服の背中から真白い湯気が天に向かっていっせいに立ちのぼり、日本画のように美しい光景だったよ」と言われました。

「グルグル回りながらそんな余裕があったのかい」私は驚いたものでした。

私は今でもそのときを思い返すと手に汗を握る感じがしますが、お互いに長生きできて今日を迎えることができました。

彼は十七歳の時、日本画壇の巨匠であった堅山南風画伯に師事し、以来数多くの作品を発表し、文部大臣賞その他、十年前に文化功労賞をもらわれ、日本美術院(院展)の理事長にもなりました。

今回の回顧展は、壮大・華麗・謙虚かつ人間性豊かな大展開覧会になるに違いありません。それは、同時に旧六中の、そして新宿高校の誇りだと思えます。先の東京での回顧展を見た人から、私にも感動の言葉がたくさん届いております。

画業60年 松尾敏男回顧展

*ギャラリートークに、松雄氏も来場予定。

*詳細は、樋口氏に尽力と三越のご好意による同封物(チラシと招待券)をご覧ください。

「花見の会」報告

3月25日 木曜日

午後4時半、大濠公園駅集合。ポートハウスにて会食後、城内からお濠端にかけてライトアップされた満開の夜桜を見物しようという趣向でした。



夜桜が映るお濠越しに福岡タワーを遠望

参加者(敬称略)は右手前から、千葉勤務より戻られた14岡本、3石井、12成瀬、16佐藤、久々のご参加7神武、左手前から10森、27小林、7小泉、29山下の9名。



時折激しく降る雨で…大濠に面したお店はほぼ貸切状態。窓一杯に広がる大濠の暮れゆく眺めを肴に、ワインとビールのすすむ楽しい会となりました。

【発行元】

九州朝陽会事務局

〒811-3221

福津市若木台1-20-7

TEL&FAX:

0940-43-5545

【事務局長】

小泉純理(7回)

E-Mail

kjun612@nifty.com

【編者】

山下美智恵(29回)

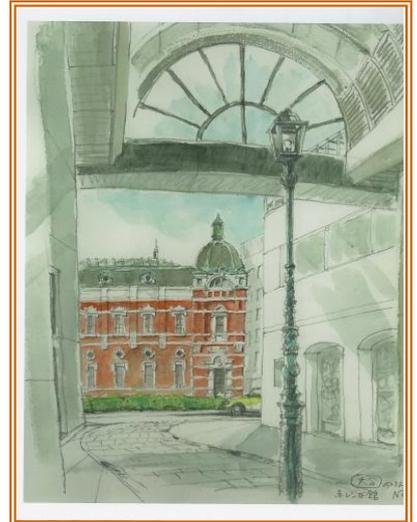
人生3度の命拾い

岡本稔(新14)

私は昨年6月末に、長くてしかし過ぎれば光陰矢の如しとの思いを抱いて43年の現役をリタイアしました。現在は、気楽な非常勤顧問の立場です。振り返ると、今日までの67年間に三度命拾いをしました。良く無事に過ごせたと、感慨深い思いがしています。

1度目は、新宿高校2年生の時。

私は、中学3年生で愛媛県の田舎から大越境で世田谷区富士見中学に転校。東京で嫁いでいた姉宅に下宿して新宿高校に入學しました。私は時々、腸カタルによる腹痛で近所の医院にかかっていましたが、その夜も腹痛を起し、何時もの医院を受診しました。医師は、簡単に診察し、腸カタルだからお腹を暖めて寝るようにと指示しました。しかし、私は七転八倒の激痛で一睡もできません。それでも朝になると嘘のように痛みが治まりました。何時もと症状が違ったため、義兄の強い指示で別の病院を受診し、内科医がお腹を触ったとたん、緊急手術が必要と直ぐ外科に回されました。虫垂炎が手遅れとなり、当時では死亡する危険性の高い腹膜炎を起す寸前でした。



2度目は、平成2年の正月、急性肝炎です。香港への家族旅行の帰国後、

軽い風邪の症状を感じました。当時重要プロジェクトを担当しており、大事を取ってかかりつけ医院で点滴を射ってもらいに行き、ついでに血液検査をしたところ、劇症肝炎の疑いで緊急入院となりました。香港では生ものを食べないように注意をしていたのですが、冷蔵庫の水で水割りを飲んだのが原因でA型肝炎に感染したと思っています。私の自覚以上に症状が重く、家族は最悪の場合もありうると伝えられていました。海外では氷もミネラルウォーターで作るべきだと教えられました。3度目は昨年、千葉県の君津市に転勤中でした。1月末ころから時々軽い胸痛を感じていました。3月ころにヒーター倶楽部で知り合った医者に話

新連載 「大分風物案内」

成瀬 輝一(新12)

私事で恐縮。58歳で会社を辞めました。仕事から解放され、残された人生を自由に生きようとの目論み。しかしそうは問屋が卸しません。訳あって、大分市の私立中高一貫校、岩田学園の理事長を引き受ける羽目に、運命です。生まれ育ち住み慣れた東京から大分に移り、早9年目を迎えました。

ここは良い所です。住めば都。温泉や海の幸山の幸に恵まれ、気候温暖にして、台風知らず。この大分の風物をスケッチと駄文でご紹介致します。

一、赤レンガ館(旧大分銀行本店)

大分駅至近にある建築。大分市10景のひとつがこの一角。どこか異国の街角を思わせます。とくに煉瓦壁の赤が夕陽に映えるころはまた格別。設計は言わずと知れた辰野金吾。しかし先生、日本中にこの手の建物を、よくもまあ、たくさん創られましたね。東京駅舎を始めとして日本銀行本支店、大阪中之島公会堂、博多文学館等、数知れず。赤煉瓦に白い花崗岩の帯をめぐらせるデザインは辰野式とよばれ、保存建築の代表です。〔住所：大分県大分市府内町2-1-1〕

事務局から

【本年度総会のお知らせ】

日時：10月16日(土)16時

場所：福岡天神 福新樓

秋口に往復葉書を送付予定

【新入会員】

蜷木 陽子(新8回:旧姓 池田)

【新連載】成瀬輝一氏より「大分風物案内」を寄稿いただきました。佐藤喜一先生の「新宿の思ひ出」とあわせ次の連載をお楽しみに。次号十一月発行予定

【松尾敏男氏(旧17)回顧展「案内」】

会場：福岡三越9階「三越ギャラリー」

期間：8月11日(水)～16日(月)